



女子バスケット部 県大会で大健闘！



7月17日から行われた県中学校総合体育大会に出場した女子バスケットボール部は、1回戦、2回戦を見事に勝ち抜き、3位という素晴らしい成績を収めました。

部長の佐藤莉真さんは、「豊中女子バスケットボール部として最後の大会で、有終の美を飾ることができました。」と大会を振り返ってくれました。

これまで女子バスケットボール部は、少人数でありながら合同チームとして練習や試合に臨み、多くの困難を乗り越えてきました。今回、チーム全員が満足感と達成感を味わうことができたのは、一人一人が強い思いをもち、仲間とともに努力を積み重ねてき

た証だと思えます。

最後まであきらめることなく戦い抜いた選手の皆さん、本当にお疲れ様でした。そして、感動をありがとうございました。

7月23日 人権教室の授業を受けて

7月23日、人権擁護委員の皆様を講師としてお迎えし、全学年を対象に人権教育の出前授業を実施しました。

授業では、実際に中学生が書いた人権作文をもとに制作されたアニメーション作品を視聴し、その内容についてグループで話し合いました。生徒たちは登場人物の立場や気持ちを考えながら、自分だったらどう行動するか、よりよい人間関係を築くためには何が大切かについて意見を交わしました。

授業の中では、「人権を守る第一歩は、他者に関心をもつこと」であることが伝えられました。また、私たちが普段生活している学校という場合は、社会全体から見ると決して広い世界ではありません。その限られた世界の中だけで物事を考えるのではなく、さまざまな立場や考え方に目を向けることの大切さについて学びました。

さらに、「自分の考えだけにとらわれないこと」「相手を思いやる行動は必ず誰かに受け継がれていくこと」についてもお話をいただきました。親切や優しさを受けた人が、今度は別の人へその思いを届けていく「恩送り」の考え方は、生徒たちにとって印象に残る学びとなりました。

人は、「ギバー（人に与える人）」と「テイカー（人から受け取ることを優先する人）」という、どちらかの立場を意識的、あるいは無意識のうちにとっ



ているそうです。皆さんは、どちらの姿に近いでしょうか。

相手を思いやる行動や親切な行いは、やがて別の誰かへと受け継がれ、人と人との温かなつながりを広げていきます。今回の学習を通して、自分のことだけでなく周りの人にも関心を持ち、互いを大切にできる人であってほしいと思います。

会の最後に３年生石塚海斗さんが、「人権を尊重するには、どのような行動が必要かが分かった。」と感想を述べました。今回の授業で学んだことを、これからの学校生活の中で実践し、一人一人がお互いを尊重し合える学校づくりにつなげていってほしいと思います。講師を務めてくださった人権擁護委員の皆様、ありがとうございました